

私は1973年に北海道旭川市で生まれ、小学校入学と同時に釧路市へ転居しました。高校卒業後は札幌の専門学校に進学しましたが、その後再び地元に戻り、現在に至ります。

この業界に足を踏み入れた大きな理由は、父が土木関係の仕事をしていたことです。専門学校卒業後、当初は土木工事関係の会社への就職を考えていましたが、測量に興味を持つようになり、地元の測量コンサルタント会社に就職しました。そこで14年間、測量設計業務に携わりました。その後ご縁があり、現在の会社に入社しました。現在の会社では北海道開発局の仕事が中心で、道路改良設計や道路構造物設計を担当し、現在は主に道路附属物点検業務を担当しています。

私が技術士を目指すようになったきっかけは、入札制度が従来の指名競争入札から公募型へ移行する時期であり、高い技術提案力と技術士資格が不可欠になると予想されたこと、そして会社の技術士取得へのサポート体制が整備されたためです。受験当初は試験で札幌へ行くことを楽しみにしていましたが、毎年1～2名ずつ合格していく同僚を目の当たりにするうちにプレッシャーを感じながらも、勉強に励む日々を送りました。

当時、弊社には4名の技術士が在籍しており、論文添削や模擬面接など数えきれないほどのアドバイスをいただきました。そのおかげで令和2年に無事合格することができました。この場をお借りして改めて深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

これからは若手技術者の育成に尽力するとともに、必要な情報収集と日々の努力を怠らず、この業界の発展に貢献していきたいと考えております。

本田 充只 (ほんだ みつし)

●建設部門(道路)

勤務先

太平洋総合コンサルタント
株式会社



→次号は、黒澤 亘さん(建設部門)

私は、青森県で生まれ、大学進学を機に北海道へ移り、現在勤務している株式会社エコテックに就職して、気が付けば15年間、河川環境の仕事に携わっていました。就職する時には、人と関わる機会が少なそうな「生き物」を対象にした仕事に魅力を感じ、今の会社へ飛び込みました。しかし、実際にはコンサルタントという仕事は、社内の人はもちろん、社外の方々と頻りにコミュニケーションをとる必要があり、何度もくじけそうになりました。そんなときは、折を見て海外旅行をすることで気持ちをリセットし、何とか今日まで続けてくることが出来ました。

新型コロナウイルスの流行により、社内の宴会が減り、働き方改革の影響で残業も減少しました。そうした環境の変化や、妻の支えもあり、令和5年には、技術士を取得することが出来ました。資格取得を機に青年技術士交流委員会、エンジョイサイエンス研究委員会、技術士のミライ研究委員会等に参加するようになり「自分のできることで誰かの役に立ちたい」という思いで、気が付けば2年が経ちました。昨年度は、札幌での全国大会開催とあって、全国から集まった技術士の方々が集まるビックイベントでアテンドを務めるという貴重な経験もさせていただきました。こうした技術士会での活動を通じて、多くの方と交流を重ねる中で、人見知りな性格やコミュニケーション能力も少しずつ克服し、成長できたと感じています。これまで培ってきた専門技術に加えてコミュニケーションこそ大切であるという気づきも得られました。今年は、仕事も技術士会の活動も一層前向きに取り組みつ、体と家族を大切にしながら、楽しみながら活動できればと思っています。

笹森 健太 (ささもり けんた)

●建設部門(建設環境)

勤務先

株式会社エコテック



→次号は、沼田 寛さん(建設/森林部門)